

# 鹿市医狂壇



556 樋口 一風 選

兼題「も一度（もいっど）」

天

も一度い相手が嘩然のへぼ将棋

(唱) 勝つ時迄いち一度じゃ止めじ  
(評) 何度も何度も、もう一度と、かかって来るへぼ将棋を詠んであります。

昔、下町では夏の夕方、将棋好きなお父さんたちが路地の端っこで、団扇片手に露台で将棋を指している風景を、見掛けるものでした。

この句はそれを詠んだもので、下手な癖に勝つまでは、何度も何度も挑戦するので、相手は閉口しています。野次馬も集って賑やかでした。

伊敷支部 谷山五郎猫

地

も一度ち頑張った二浪が夢い出っ

(唱) 今が有つとあ難儀ん褒美  
(評) 若い頃、苦労したことを時々夢に見ます。この人も若い頃、心ならずも受験に失敗して、志望校に、もう一度挑戦しようとして頑張った、学生の頃を夢に見ると詠んであります。

今が有るのは、あの頃の悔しかった浪人生活を頑張りきった、若い頃の夢が懐かしくなります。  
(狂句はフィクションです。作者のことではありません)

紫南支部 二軒茶屋電停

人

心配じゃつても一度使所け行たつ寝っ

(唱) すつきいしたで先ずあ安心  
(評) 余り楽しい話ではありませんが、歳取るとトイレが近くなります。

夜中に何回も起こされて、前立腺を恨みたくもありません。選者も泌尿科の先生に長いことお世話になっていて、先生と試行錯誤しながら治療して頂いております。

ホームドクターには水を飲めと言われし納得はしているのだが、夜間頻尿を考えると控えたくなり困っています。とにかく残尿の無いようすつきりして寝ましよう。

市立病院支部 上荒田 三十郎

秀逸

も一度ち鏡の前で引つ込めっ  
(唱) 何度やってんやっばいメタボ

五客一席 上町支部 吉野なでしこ  
五客二席 紫南支部 加治屋犬好  
宝籤じも一多量夢を買っ  
(唱) 諦めやんな年末ちや毎年

五客三席 伊敷支部 谷山五郎猫  
も一度も戻ろごちやなか受験生  
(唱) 辛か青春じゃつち思っ

作句道場

今月の句から。

◎兼題の「も一度」難しかったのでしょうか投句が少なかったです。「もう一度」は、チャレンジを詠めるので、人間の性が表現出来ると思ひ、広がりのある良い兼題だと思つていたので。

例えば、のど自慢、へぼ将棋、五輪や、いろいろな記録へ挑戦、など視野を広げて頂ければ面白い句が出て来ると思ひます。

◎「トイレ」のことを「便所」「便所」といいます。

因みに薩摩の小作人は貧しかったので、チリ紙などは買えず、新聞紙か雑誌の紙

熊達も時の漢字で格く上げっ  
稲田 切株

(唱) 熊は生きろち山は餌不足

彼が字ち呆え字で直き当てられっ  
米元 年輪

(唱) 句せか良かれば誰いでん採用

二人入会つ賑やぎやこなつた狂句会  
北村 虎王

(唱) 人数が増れば会や盛り上がった

古い脳をば精一杯絞つてスマホデビュー  
瀬戸口 捨緑

(唱) 一時すればたーた操つっ

## 狂句募集

- ◎6号 題吟「地震(なえ)」  
締切 令和8年5月7日(木)
- ◎7号 題吟「加勢(かせ)」  
締切 令和8年6月5日(金)
- ◇選者 樋口 一風
- ◇漢字のわからない時は、カナで書いてご応募ください。選者が適宜漢字をあてさせていただきます。
- ◇応募先 〒八九二ー〇八四六  
鹿児島市加治屋町三番一〇号  
鹿児島市医師会「鹿児島市医報」編集係  
TEL 〇九九ー二二六ー三七三七  
FAX 〇九九ー二二五ー六〇九九  
E-mail:ihou@city.kagoshima.med.or.jp

を揉んで使っていました。  
それもない家は、竹の篋(竹かご)の編むときに使う竹の皮をはいた肉の部分で幅一センチくらい長さは二〇センチくらい)や荒縄を張ってあった。友人の家は竹の篋だったので、困ったことがあります。終戦前後の話。諸兄ならどう使いますか。

薩摩狂句鑑賞 194

薩摩狂句暦

三条風雲児著 から  
(平成元年五月一日発行)

糸解きややぜろし子供む叱るたくっ

萩原 三虎

もつれた糸を解くのは、ずいぶん根気の要る仕事で、短気者には出来ない相談。初めのうちは、誰でもいいねいやつていけるけれども、だんだんいらいらしてくる。

そんな時、走り回ったり、ふざけあつたりして、「やぜろし(うるさい)子がいたのであろう。とうとう頭にきて、どなりつけたわけである。別に子供がうるさいから、もつれた糸が解けないわけではないのに、とんだとばつちりを食わされたのは子供。

恋じゃろか化粧ん時間な倍いけなっ

(唱) お白粉ゆ塗つちや鏡に溜息

瀬戸口 捨六

何もかも高くて我家で飯と汁

(唱) 手取ゆ上げんな庶民な干上がった

遠矢 忠太

日曜位れゆつくい寝せち一年坊

(唱) 布団の被つ父の真似じゃろ

西ノ園 ひらり

薩摩狂句誌「渋柿」八六〇号 雑吟から

(令和八年三月一日発行)